

誰も排除されない 社会をめざして

～ひとりひとりを大切にするダイバーシティ社会とは?～

◆ 2015年6月10日(水)

- 午後1時30分～午後3時00分
場所／西宮上ヶ原キャンパス
図書館ホール

◆ 2015年6月12日(金)

- 午後1時30分～午後3時00分
場所／神戸三田キャンパス
II号館102号教室

◆ 講師／^た ^{むら} ^た ^{ろう} 田 村 太 郎 氏

(一般財団法人ダイバーシティ研究所 代表理事)

※手話通訳、パソコンテイク、ビデオ撮影を予定



■講演内容

人の多様性に配慮のある取り組みを地域や組織で進めていく「ダイバーシティ社会」への関心が高まっています。ちがいを受け入れ、対等な関係を築こうとしながらも全体として調和が取れている「ダイバーシティ社会」のあり方を、阪神・淡路大震災での外国人被災者支援を機に、ちがいに不寛容な社会のあり方を変えようとさまざまな活動に取り組んできた経験をもとに整理し、誰も排除されない社会を実現するための具体的な一歩をどのように踏み出していけば良いのか、とものに考えましょう。

■講師紹介

兵庫県伊丹市生まれ。高校卒業後、アジア、ヨーロッパ、アフリカ、南米などを旅する。在日フィリピン人向けレンタルビデオ店で勤務することで、日本で暮らす外国人の課題を知る。阪神大震災直後に外国人被災者へ情報を提供する「外国人地震情報センター」の設立に参加。

1997年4月から2004年3月まで(特活)多文化共生センター代表として同センターの成長に居合わせた。2004年4月からIIHOE研究主幹として、NPOのマネジメントサポートや自治体との協働にテーマを移し、非営利民間の立場から地域社会を変革するしくみづくりに取り組む。また、2007年1月からダイバーシティ研究所代表として、CSRにおけるダイバーシティ戦略に携わる。

2011年3月東日本大震災を受けて、「被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト(つなプロ)」、スペシャルサポートネット関西の発足に関わり、それぞれ代表幹事、世話人を務める。また、内閣官房に発足した「震災ボランティア連携室」で企画官に就任。被災地のニーズ把握や震災ボランティア促進のための施策立案に携わった。2012年2月より復興庁上席政策調査官となり、14年4月からは復興推進参与としても東北復興に携わる。

総合テーマ：

**Towards the Realization
of Human Rights**

— 人権保障の実現を目指して
(2015～2019年度)